

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2392000085		
法人名	社会福祉法人 さわらび会		
事業所名	認知症対応型グループホーム 常盤 （ふじの街）		
所在地	豊橋市宮下町1番地の1		
自己評価作成日	令和2年11月30日	評価結果市町村受理日	令和3年4月22日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&Jigy_osvoCd=2392000085-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人『サークル・福寿草』
所在地	愛知県名古屋市中熱田区三本松町13番19号
訪問調査日	令和3年1月8日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

特養、デイ、グループホームがひとつの建物の中に存在し、本人様やご家族様の状況に合わせて施設を選んだり、移動する事が連携して出来る事に心がけています。医療面では、協力病院との連携もとれており、安心・安全なサービスが提供できます。例年は月に2回オレンジカフェを開催、秘密基地を月～金、PM4時～6時まで地域の子供達、住民の方、入居者様のふれあいの場を提供させていただいていましたが、本年度はコロナ禍で開催を見合わせています。その代わりに地域の方々と繋がる意味で、施設前にボードを置いてクイズなど掲示しています。

ホームでは、併設事業所とも連携しながら地域の方との交流の取り組みが行われているが、今年度は、感染症問題があることで、認知症カフェ等の取り組みが中止になる等、地域の方との交流が困難な状況になっている。地域の方の訪問が困難になっている状況下においても、地域の方との交流が継続できるように職員間で検討を行いながら、新たに玄関先に掲示板を設置する取り組みが行われている。掲示板を活用しながら、地域の方への情報発信を行いながら、地域の方との交流が途切れないような取り組みが行われている。医療面での支援についても、ホームの運営母体が医療機関でもあることで、利用者の健康状態などに合わせた医療面での支援が行われている。又、職員研修の取り組みについても、運営法人全体で実施しており、職員の資質向上につなげる取り組みが行われている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	山本理事長の「みんなの力で、みんなの幸せを」「認知症介護の三原則」のもと、職員は業務に取り組んでいる。また、事務所と各フロアーに掲示している。	運営法人の基本理念をホームの支援の基本と考えながら、毎日の申し送りの時間に職員間で唱和する取り組みが行われている。また、職員研修の際にも理念の振り返りを行い、共有と実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	オレンジカフェを月2回開催がコロナ禍により開催を見合わせています。また、毎朝の施設周りの掃除等を行い、近隣の方とは挨拶をする関係を築けている	今年度は、感染症問題があることで地域の方との交流が困難になっているが、ホームでは新たに玄関先に掲示板を設置する等、地域の方との交流を継続する取り組みが行われている。なお、例年は地域の方との様々な交流の機会がつくられている。	「オレンジカフェ」の取り組みや小学校とも連携した「秘密の基地」活動等の取り組みが中断している状況が続いている。今後の感染症の状況もみながら、交流が再開されることを期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	運営推進会議の開催はなく、法人の冊子と手紙でお知らせはさせていただいています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	本年度は開催されていません。	今年度の会議については、書面による実施となっている。例年は、年間を通じて様々なテーマに基づいて会議が行われており、出席者にホームへの理解を深めてもらう働きかけにつなげている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	市の担当者の方とは随時連絡をとり相談に乗って頂いている。	市担当部署や広域連合との情報交換等については、併設事業所を通じて行われているが、ホームからも随時ね情報交換等の取り組みが行われている。また、地域包括支援センターとも様々な機会を通じて交流が行われている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	安全性を考慮して玄関やエレベーターには施錠があるが、ユニット間は自由に行き来している。拘束をしないケアを意識し、工夫も行っている。	身体拘束を行わない方針で支援が行われており、ユニット間の移動が自由にできる等、日常生活の中で圧迫感を感じないような支援が行われている。また、身体拘束に関する委員会や定期的な職員研修が行われている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	虐待に関する研修会に参加し又施設内でも勉強会を行い知識を学ぶと同時に入浴時や着替えの際には身体の確認を行い、各ユニットと、施設全体で防止に努めている。職員の虐待セルフチェックも行いました。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	運営推進会議で成年後見制度について学ぶ機会を設けたり、後見制度を利用されている入居者さまもいる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	申し込み前に、施設内の見学をして頂いていましたが、現在見学ができない為、担当者が丁寧に説明させていただき、雰囲気や料金等納得された上で申込書の提出をしていただいている。入居時に再度詳しい説明をさせていただき、契約書を交わしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	入居時に苦情の窓口について説明を行なっている。また、年に1度無記名でのアンケートをご家族さまに行なっていただき、その集計をもとに、周知し改善に努めている。	現状、家族との交流が困難な状況が続いているが、例年は家族会を通じた交流の機会がつけられている。運営法人でアンケートを実施しており、家族からの要望等の把握につなげている。また、毎月のホーム便りの作成も行われている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	スタッフ会議にて、意見や提案する機会を設けている。また、管理者が必要と判断した場合には個別の面談やユニット会議にて意見や提案を聞く機会を設けている。	毎月の職員会議や日常的な職員間での情報交換を行いながら、職員からの意見等を管理者が把握し、ホームの運営に反映する取り組みが行われている。また、管理者による職員面談も行われており、一人ひとりの把握につなげている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	職員の状況をみて法人内の移動等、その職員に合った環境や条件の整備をしている。年に1回、法人代表へメッセージを届ける機会がある		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	法人内にはさわらび大学、介護技術研修などがあり、認知症のことや医療のこと、様々な内容を学ぶ機会がある。個々の能力やレベルに合わせた研修により多くの職員が参加できる機会が増えた		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	ZOOMを使用しての研修に参加しました。		

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	面接時の情報から、本人やご家族の困っている部分や生活様式を知り、声掛けと傾聴をして実際の生活の様子を観察し情報を共有して安心、安全に生活できるように支援している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	本人が施設での生活に馴染めるか不安が強いので、面談時に具体的な生活習慣や希望することを知り、入居後は情報交換をしている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	グループホーム入所か、デイ利用かなどをご家族様とお話をさせていただき検討いただいています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	残存機能や今までの生活、生きがいなどを引き出しできる事はしていただいただき、職員とも一緒にできる事はしています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	面会に来られた際は、最近の様子を伝え、本人が喜ばれたことなどのエピソードを話しながら入居前や若かった頃の様子も聞き、絆を感じて頂くようにしている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	今年は外出が出来ず、ご家族様とはガラス越しでの面会をお願いしています。会話がスムーズに出来るようにトランシーバーを使いお話をいただいています。	現状、外部の方との交流が困難になっているが、例年は、利用者の入居前からの関係の方がホームに訪問する等、馴染みの関係継続にもつながる機会がつけられている。また、家族との外出を通じた交流も行われている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	性格により、気の合う人を考えてテーブルの席を工夫している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	GHから特養に移られた方にも、時々訪ねては会話を楽しんだりしています。ご家族様の思いや考え方など特養の職員と共有しています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	毎日の生活の中で、楽しみにしていること、気を付けていること、出来ていることなどを見い出して、意向に繋がるかを把握、確認し共有している。	職員間で利用者を担当する取り組みも行いながら、意向等の把握を行い、職員間での情報の共有が行われている。また、毎月のカンファレンスの機会をつくり、利用者の意向等を検討し日常の支援につなげる取り組みも行われている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	ご家族様からの情報をもとに入居者様がGHに馴染めるようなポイントを見つけ色々な方向から把握、共有している		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	生活情報、バイタル表、排泄チェック表、生活記録等、随時記録し、見やすくグラフにしたりファイリングして職員で共有している		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	ユニットでのケアカンファレンス、ケアプラン、リハビリ計画に基づきチェック表を作成しそれを基準にしてケアに取り組み見直しもしながら実行している。	介護計画は3か月を基本に見直しが行われており、利用者の状態変化等に合わせた対応が行われている。また、日常的にも職員間で介護計画の内容に関するチェックが行われており、介護計画の見直しに合わせたモニタリングを実施している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	毎日、ケアチェック以外にも個別の生活記録をしている。勤務時は口頭で情報共有し、出勤した時は申し送りノートや記録を見てケアの実践をし、見直しも行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	今年は外出が出来ず、また、外部からも施設内の立ち入りは禁止している為、美容師資格を持っている、職員にカットをお願いしました。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	オレンジカフェ、町内会の行事など職員も同行して参加し交流していましたが、今年はありませんでした。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	1ヶ月に1回の訪問診療では状態を報告して定期処方していただき、体調不良時等適宜受診し、ご家族様とも連携している。また、外来の看護師にも相談し、受診につなげている。	ホームの運営母体が医療機関でもあることで、利用者の健康状態に合わせた柔軟な対応が行われており、ホーム職員による受診支援等も行われている。また、併設事業所の看護師とも連携しており、医療面での支援につなげている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	施設内の看護職員や協力病院の看護師に相談ができ、支援に繋がっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は入居者情報、または、サマリを作成して入院先に提示し、退院時はサマリに加え細かな情報ももらっている。また、退院前の状況では協力病院に相談して、リハビリ目的で転院相談をしています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	現在看取りは行っていない。一般状態が悪化したり、食事が摂れない状態の時は家族や協力病院主治医と連絡を取り合い相談している	ホームの運営法人で複数の特養を運営していることもあるため、ホームでの看取り支援が行われていないことを家族にも説明しており、利用者の身体状態等に合わせた、次の生活場所への移行支援が行われている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	勤務先が同じフロアの職員等の支援も依頼しながら、管理者、家族、かかりつけ医や他の医療機関に連絡をして対応している		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	防災訓練を行っている。夜間緊急連絡網の訓練も行い、全職員に情報がスムーズに伝わり、協力できる体制に努めている	避難訓練は、併設事業所とも連携しながら事業所全体で行われており、夜間想定訓練や通報装置の確認等も含め、職員間で連携した取り組みが行われている。備蓄品についても、事業所全体で確保が行われており、非常用の発電機も設置されている。	現状、地域の方との交流が困難になっていることもあるため、感染症の状況もみながら、地域の方との協力関係の取り組みにも期待したい。

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	居室はドアを閉め、巡回や訪室はノックをしてプライバシーを損なわないように対応している。	運営法人の基本理念と共につくられている「認知症介護の三原則」を職員の支援の基本に考えながら、日常的に職員の意識向上に取り組んでいる。また、職員の接遇にもつながる定期的な職員研修も行われており、振り返りにつなげている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	話す機会をつくり、無理強いしてしまう事がないよう、自己決定出来る様な声かけを行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	個人差があり、生活全般で無理強いしない、急かさない、職員主導にならないように気をつけている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	お化粧されていたり、洋服もおしゃれをされていて今までの身だしなみ、おしゃれは続けられている。男性には髭剃りをしていただいています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	食事の支度に参加できる方がいて、その方の出来る事好むことお手伝いしていただいたり洗い物もして下さいます。	食事については、併設の厨房から提供されるメニューと食材で調理されており、利用者も調理や片付け等のできることに参加している。利用者の好みや嗜好等にも配慮した対応も行われており、おやつ作りや季節等に合わせた食事の提供も行われている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	1日の食事水分摂取量を把握できるよう表にまとめ、飲んでいただける物で摂取している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	毎食後口腔ケアを習慣とし、声かけを行なっている。義歯を使用されている方には、消毒など行い清潔に保っている。一部の方には介助もしている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている。	紙パンツ、布パンツ、パットの使用も、その方のその時の状況に合わせて職員共有情報の基、対応している。	利用者の排泄記録を残し、日常的に職員間で情報を共有しながら、一人ひとりに合わせた排泄支援が行われている。居室内にトイレが設置されていることもあら、トイレの場所に合わせてベッドを配置する等の対応も行われている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	水分摂取はもちろん、オリゴ糖を取り入れたり、歩行をしたり運動する時間を増やすように支援している。水分量も毎日チェックしています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている。	時間帯を決めて行っており、その都度、個々に合わせた声掛け、対応を行う。拒否が強い場合は無理強いをせず様子を見たり、タイミングを見ている。	週3回の入浴が行えるように支援が行われており、入浴を拒む方についても声かけを行い、定期的な入浴につなげている。また、浴室に機械浴の設置が行われてあり、身体状態に合わせた入浴の対応も行われている。また、季節に合わせた入浴も行われている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	温度や湿度に気を付けている。 また、昼夜逆転してしまわない様に昼間レクリエーションなどで楽しんで頂く工夫をしている。 ほとんどの入居者さまは時間になると休まれる。夜中に起きられても傾聴する。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	薬の一覧表、服薬チェック表を活用し日付ごとのセットは職員数人が関り正確、誤薬がない様にしている。服薬時にはお名前、服薬のタイミングを声に出して行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	コーヒーでくつろぐ時間を持っている方、家事、掃除などのお手伝いを無理なくして頂いている。気の合う方たちが集まられてカルタをされたりしています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	髪を染めるために美容院へ行く支援をしていましたが、今年は外出できませんでした。	感染症問題があることで、利用者の外出が困難になっているが、例年は、季節等にも合わせながら外出の機会がつけられている。利用者の外出が困難な状況の中でも、協力医療機関等への受診支援が行われている。	利用者の外出が困難な状況が続いていることもあるため、今後の感染症の状況もみながら、利用者の外出の機会がつけられることを期待したい。

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	お小遣いは事務所で管理しており、買い物も職員で行く事が多い。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	希望があれば電話を掛けたりしている。手紙のやりとりは現在行なっている方もいます。年賀状等も一人一人に書いていただきご家族様に出しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	居室入り口や壁紙は、季節感を出すため、毎月作り、飾ったりしている。各お部屋のトイレも毎日清潔を保つように掃除を行っている。	ホーム内は広くゆったりとした空間がつけられていることもあり、利用者が日常生活の中で圧迫感を感じないような生活環境がつけられている。リビングから出たベランダで菜園をつくる等、利用者の楽しみをつくる取り組みが行われている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	広い空間があるため、多目的に利用している。食事席以外に、ソファも設けてあるためテレビを見たり談笑されたり自由に過ごしていただいている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	ご家族の写真を飾られたり、馴染みの家具を持ってきて頂き配置されている。中にはお仏壇をおかれる方も見えます。	居室についても、広い空間が確保されており、トイレと洗面台が設置されていることと合わせて、利用者のプライバシーに配慮した対応が行われている。また、利用者の意向等にも合わせた持ち込みが行われてあら、一人ひとりに合わせている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	入居者さまの行動を抑制しないよう職員同士での声かけ等行い安全に見守っている。		